

学校関係者評価

受審月日 令和6年6月6日(木)

評価者 *畑地 治 (松阪市民病院院長) 横山 孝子 (松阪市民病院看護部長)
 清水 敦哉 (済生会松阪総合病院院長) 鶴森 立美 (済生会松阪総合病院看護部長)
 田端 正己 (松阪中央総合病院院長) 濱口 早弓 (松阪中央総合病院看護部長)
 富本 秀和 (済生会明和病院院長) 越川 由美子 (済生会明和病院看護部長)
 齋藤 真一 (松阪厚生病院院長代理) 奥見 浩代 (松阪厚生病院副看護部長)
 齋藤 洋一 (南勢病院院長) 高橋 勇子 (南勢病院看護部長)
 志賀 かなえ (独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター附属三重中央看護学校副学校長)
 一志 麻奈斗 (同窓会「松看会」会長)
 松本 みづき (在校生保護者代表)
 山崎 千恵子 (松阪市障がい福祉課主幹保健師)
 *委員長

令和5年度

松阪看護専門学校 学校関係者評価

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	社会や地域のニーズに応じた看護師育成の方向性が明確に示されている。新カリキュラム移行に際して学生だけでなく教育関係者への周知に努めており、今後も続けていただきたい。卒業時の学生へのアンケートや、卒業後の基礎教育の評価となる就業先へのアンケートなどからもフィードバックして評価されており、課題とされている事柄について、積極的に教育されていると感じ、学生にも十分伝わっているため、意気込みが感じられる。
II. 教育課程	新カリキュラムでは、新設の5科目において、カリキュラム改正のポイントを押さえた科目設定がなされている。コミュニケーション力の育成や、科目横断の学習である健康支援論や家族看護論、多職種連携などが新たに教授されていて、1年生から3年生へと学習が積み上げられる内容となっている。また、シルバー人材センターの方を対象とした老年看護学の演習や、地域包括ケア演習という地域踏査を行う授業や、母性看護学の実習では松阪市健康センターなどのフィールドワークが組み込まれた実習など「地域に貢献できる看護実践者」の育成につながる科目構成となっている。
III. 教授・学習・評価過程	学生の学びが深まるように授業方法や内容が工夫されている。特に、アクティブラーニングであるジグソー学習を取り入れるなど、主体的に学生が学ぶ工夫をされており、学習成果が上がっていることがうかがえる。学生による授業評価もなされ、外部講師にも評価を示されていて、質の高い教育の実施を目指されていることは評価できる。今後も継続をしてほしい。 コロナ禍で実施したりモット学習や今後DXを活用した授業なども活用されていくことを望む。
IV. 経営・管理過程	SNSの活用や地域に向けて様々なボランティア活動を通し、学校の広報活動に尽力している。18歳人口の減少に伴い、定員割れをしている看護専門学校が多い中学生確保ができていることは経営上も十分評価できる。しかし、学生確保に向けては県内の一般大学や短大へも拡大するなどの新たな取り組みや、松看の尖った特色を打ち出していくことも必要でないかと考える。地元の高等学校とのパイプを太くしていくことや、近隣の中学校へのアピールをしていくことは、先を考えた良い活動であると感じる。 経営的には支援体制を整えて、学生が不自由なく学習できるように配慮されている。また、学校評価では、第三者評価として日本看護学校協議会のサーベイの診断を受けたことは評価できる。

V. 入学	<p>入学の選抜方法を検討して社会人入試を行っていることは、1人でも多くの受験生を得ることに繋がっている。今後は社会人にどのように周知していくか、メディアの活用や市民講座などでの周知など色々な方法を取り入れてほしいと感じる。18歳人口の激減により、社会人や男子学生を増やさないといけない時代に来ている。今後も様々な取り組みを継続していただきたい。看護学校の一定の質を担保するには受験生を多く確保して選抜していくことが必要である。</p> <p>認定看護師として頑張っている先輩看護師の活躍や、国家試験の合格率をホームページでもっとアピールされると良い。</p>
VI. 卒業・就業・進学	<p>地域理解について、社会人基礎力の育成や就業調査の実施など、学生のキャリア形成に関する取り組みがされており、在校生への情報提供にもつながっている。現在95%以上の地域への就職があり、就職先との情報交換がされ、良い連携がなされていることは素晴らしい。卒業後の就業状況について初めて調査されるなど新しい取り組みにより経年変化を知ることは重要である。</p> <p>同窓会とのつながりも、力強い組織として学校の大きな支援になっていると感じる。中学校へのわくわくスクールに同窓会生が同行するという試みも計画されている。ぜひOBの力を結集する体制を築いてほしい。</p>
VII. 地域社会・国際交流	<p>ボランティア活動、中学校との交流、献血への参加、消防団の活動への参加など様々な地域社会への活動、貢献を積極的に行っていて評価できる。これらは生の地域の特性を知ることができ、卒業生の将来の進路を考える機会づくりにもなっている。また、外国語で地域に多い外国人に応じた中国語やタガログ語を取り入れ、国際的視野を広げるように教育されているところは、実習においても外国籍の方を担当してアプリの活用やコミュニケーションを積極的に行おうとする姿勢に繋がっている。</p>
VIII. 研究	<p>教員自ら研鑽し、学習や研修会に参加できている。研究に取り組まれている教員もいて、高め合う教員同士の繋がりを感じる。今後も継続され、学会等で発信していただきたい。大学教員や臨床の看護師との共同研究も推奨したい。</p> <p>倫理委員会の設置など、今後の研究活動をサポートする体制整備への取り組みが評価される。</p>
総評	<p>教育、学校経営に関して全体的に努力されている。新カリキュラムへの過渡期であったが、地域のニーズを把握し、地域とのつながりを意識しながら取り組まれている。教育課程は工夫がされているので継続していただきたい。SNSでの発信やオープンキャンパスの実施は学生確保につながっており、評価できる。学生確保のために社会人や男性学生の確保など、これまでにない募集活動を実施していく必要がある。Instagramのフォロワーを増やす努力も必要であると感じる。学生の意見も聞きながら実施するとよいと感じる。卒業生の追跡調査は今後も継続していただきたい。</p> <p>更に、同窓会の活動のさらなる活発化や研究への取り組みを実施し、それらを発信していくことを期待したい。</p>